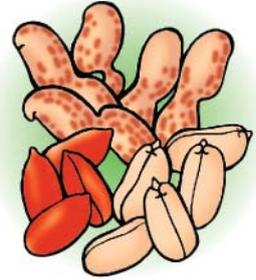


食べ物になるまでを見てみよう!

食べ物がみなさんのところに届くまでには、①田んぼや畑、牧場などで食料を生産する、②必要に応じて手を加える、③つくられた食べ物をお店に運ぶ、④お店にならんだ食べ物を買ってくる、ということが行われています。
(P3の図「フードチェーンアプローチ」も見てください)
食べ物の安全性を考えるとときには、①から④の間で行われ

ている安全のための取組を知ることも大切です。たとえば畑でいろいろな農産物がどのように栽培されているか知っていますか?
今回は、落花生(ピーナッツ)ができるまでを紹介します。



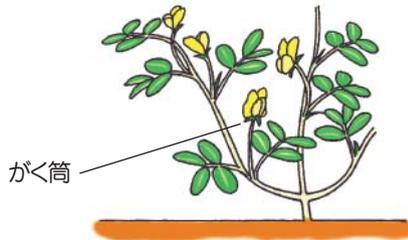
●落花生(ピーナッツ)は土の中にできる!

落花生は、枝になるものだと思いませんか?いえいえ、実は地面の中。花が落ちた土の下になるから「落花生」という名前がついたんですよ!

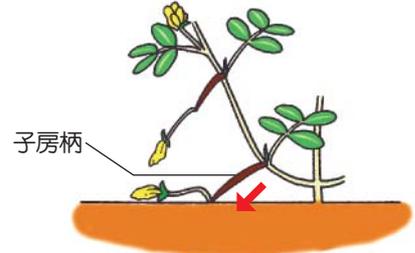
1.ふたん食べている部分が、落花生の種。
あたたかくなった畑に種をまきます。



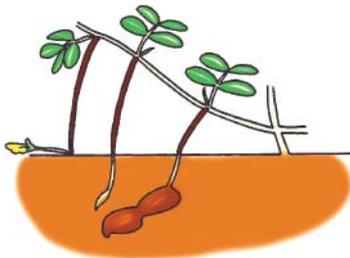
2.発芽から40日くらいで花が咲きます。



3.花がしぼむころ、花の根元からヒモのようなもの(子房柄)が伸びてきて、地面にささります。



4.地面にささった子房柄の先がふくらみ、サヤ(殻)ができて、中に種が! 落花生の誕生です。



5.天日で乾燥したのち、煎ったり、ゆでたりして、ピーナッツのできあがり!



落花生ができるまで、種をまいてから約130日以上かかります。この間、畑を耕したり、鳥から種を守ったり、水やり、草取り、害虫の駆除など手間はたくさん。このような作る人の努力はどんな食べ物でも同じです。それを知れば、食べ物をムダにする気にはなりませんよね!

